

図書館のPR実践

森下 芳 則
田原市図書館

- 1 利用者へのPR = 図書館全体でおこなう
図書館利用を広げるためのマーケティング(利用者の求める図書館活動を実現する)感覚。図書館の利用によって、必要な資料、知りたいことが容易に入手でき、生活を楽しむことなどをアピールする サービスの内容、資料、施設、図書館の理念(アウトカム、知的自由など)などを紹介
- 2 理事者(経営資源配分の権限を持つ人)へのPR = 主として図書館長がおこなう
資料費、職員などの確保のためのコミュニケーション(日常的な働きかけ)感覚。首長の政策を達成するための図書館活動(人づくり、地域の活性化など)
 - ・図書館運営手法の多様化 アウトソーシング、コスト削減の圧力「実は図書館と言うのは苦境に立たされている面があります。指定管理にだしてしまえとか、いかに安上がりにするかということが、為政者としては一番考えていることなんです。質の高いサービスを提供する、とは言っていますが、質を高くしようと思ったらもっと金がいる。そんなことは真っ平ごめんだ。いかに安がりにするかということ、これが一番の念頭にあることなんです。」

片山善博前鳥取県知事(全国図書館大会 平成19年)
- 3 田原市図書館(2002年8月開館)の事例
 - 開館前
 - ・町広報の連載「もりしたよしのりのおはなし」平成12年11月~14年9月
 - ・情報広場 図書館建設中に住民、設計者、準備室が協働で開催
 - ・職員体制の構築
 - 開館後
 - ・市広報「ようこそ図書館へ」
 - ・館内ディスプレイ 美術系の学卒者を採用(囑託)
 - ・マス・メディアへの露出
 - ・行革担当への働きかけ「図書館は地域の文化の中心であり、民間委託となると派遣される社員も短期労働者などが想定され、図書館が単なる貸本業になる恐れや、本来の図書館サービスが損なわれることが考えられる。専門性をもった司書職員による直営が適当である。」 指定管理者制度・直営一覧(平成18年4月時点)田原市総務課
 - ・予算削減(資料費、報酬)への対応 削減を目に見える形にする
新聞・雑誌のタイトル削減、開館時間短縮の主張